

平成23年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況	
協議会	名瀬地区	宮古崎	0	30%	波当たりが強く、ハヤサイヤコ属が優占。健全な状態が保たれている。被度は昨年度20%から増加。
		宮古崎東	0	10%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。上部に卓状ミドリイシ類が残る。直径20～30cmの小型群体が多い。白化や食痕はみられなかった。
		デン浜	0	25%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。浜中央の水道付近に卓状ミドリイシ類が残る。直径50cmほどに成長している。新規加入は少ない。
		知名瀬大浜	1	10%	以前の食害により礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、ミドリイシ属の小型群体が多く見られる。場所により1㎡あたり10群体以上の群体がみられる。
		大浜	1	5%未満	礁縁にはミドリイシ属の小型群体（20cmほど）が多い。礁斜面でもミドリイシ属の小型群体が食害を受けている。食痕が10ヶ所程度みられた。
		摺子崎	0	10%	以前の食害により礁斜面は全滅状態。礁縁はハヤサイヤコ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体（直径20cmほど）も多い。食痕も見られなかった。
		赤崎	0	5%未満	以前の白化現象により壊滅状態。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。10～20cm程度の小型群体もまばらにみられる。
		名瀬湾立神	0	5%未満	以前の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。小型群体も、まばらにみられる。直径は10cm程度。
		山羊島	0	20%	ハマヤコ属が優占。大型のハマヤコ群体が点在し、枝状のヒゲイダハマヤコ群落は広がる。ミドリイシ属は、ほとんど見られない。サンゴはやや回復傾向。
		キョンナ	0	5%未満	白化現象で壊滅後に被度10%まで回復してきたが、2007年オヒビにより再び壊滅。ミドリイシ属の小型群体やハヤサイヤコがまばらにみられる。
		有良	0	5%未満	以前に大量発生したオヒビによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハヤサイヤコがまばらにみられる。新規加入のサンゴは少ない。
		芦花部	0	5%未満	以前に大量発生したオヒビによりほぼ全滅。ミドリイシ属の小型群体やハヤサイヤコが、ごく少数みられる。新規加入のサンゴは少ない。
		摺子崎礁池	0	5%未満	枝状のヒゲイダヤコ・葉状のフジミヤコが優占していたが、ほぼ全滅した。塊状のハマヤコの小群落や塊状ハマヤコが点在する程度。
		摺子崎礁原	0	15%	卓状ミドリイシ属が優占。以前オヒビのリーフ内への進入を阻止し、ヤコを保全できた海域。直径40cmほどのミドリイシも散在。
		大浜礁池	0	5%未満	以前の白化現象で死滅した樹枝状ミドリイシ群落上に、ミドリイシ属の小型群体が少数見られる。新規加入のヤコは少なく、回復が遅れている。
	大浜礁原	0	5%未満	オヒビにより礁斜面のヤコはほぼ全滅。礁原にはミドリイシ属の小型群体が生存している。直径20cmほどの群体が多い。	
	崎原東	0	70%	卓状のケハダミドリイシが優占。離礁上部は大型のケハダミドリイシ群体に覆われている。名瀬海域では、生ヤコ被度が一番高い地点。白化や食痕も無い。	
	崎原南	0	20%	樹枝状のスキノミドリイシや、葉状のフジミヤコが多い。塊状アヤコやハマヤコも点在している。	
	仲干瀬崎（小湊南）	0	50%	礁縁にはハヤサイヤコ群集が一面に広がり、礁斜面上部ではミドリイシ属小型群体も増加している。	
	笠利地区	赤木名	0	30%	塊状ハマヤコ群落。内湾で濁っている事が多いが、おおむね健全な状態。
		前肥田	0	70%	ヒゲハマヤコ群落（50m×100m）が広がる。内湾で濁りもあるが、健全な状態。白化や食痕もみられない。ミドリイシ属はほとんどみられない。
		赤木名立神	0	5%未満	以前の白化現象によってヤコは壊滅。卓状および枝状ミドリイシ属の骨格が残る。2009年から、直径10cm程度のミドリイシ属小型群体がまばらにみられる。
		蒲生崎入口	0	10%	以前の白化現象によりヤコは壊滅。ウミサカ科のソトコラル類が優占。多様性は高い。
		蒲生崎	0	10%	ヤコの新規加入が多い海域。20～30cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。
		佐仁	0	40%	回復が特に順調な海域。30～40cmに成長した指状ミドリイシ類もみられる。礁斜面では樹枝状のアヤコ小群落も点在している。
用海岸		0	50%	回復が特に良好。卓状・枝状のミドリイシ属の小型群体が多く、南側にはケハダミドリイシ、ウミサカミドリイシの小型群体、北側にはアヤコが点在。種多様性も高い。	
あやまる岬		0	30%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形のため、礁縁にのみ卓状ミドリイシのみみられる。付着藻類が多く新規加入のミドリイシ類は少ないが、ヤコは健全な状態。	
節田		0	60%	礁縁から礁斜面にかけて、ケハダミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落は広がる。新規加入のミドリイシ類も多く、順調に回復。白化や食痕も見られない。	
明神崎		0	30%	波当たりが強い礁縁にハヤサイヤコが広がる。水路部には1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。白化や食痕も無く、健全な状態。	
住用地区	用安	0	10%	直径20cmほどの指状ミドリイシ属の小型群体が多い。付着藻類が多くみられ、周辺海域と比べると新規加入のヤコ・サンゴは少ない。	
	神の子	0	40%	礁池内に枝状および葉状のヒゲイダヤコ群落は広がる。食害や台風による破損の為、年々被度は低下していたが、回復傾向がみられる。	
	高浜東	0	60%	卓状ミドリイシ属の大型群体が優占している。海底への泥土の堆積は無く、やや濁りはあるが、健全な状態。	
	高浜	0	40%	直径40cm程度の卓状ミドリイシ属小型群体が優占。やや濁りはあるが、健全な状態。	
	鳩ノ崎	0	5%未満	礁原上にはハマヤコやキメイシ類の小型群体が残る。岩にはシルトが堆積しており、新規加入のヤコは少ない。	
	トビラ	0	10%	塊状及び枝状ハマヤコ類が点在。付近の窪地に10～30cm泥土が堆積している。	
	スタルトビラ	0	10%	礁縁に卓状ミドリイシの小群体が見られる。波あたりが強く骨格の強固な種のヤコが多い。新規加入のミドリイシ類も増加傾向。	
和瀬	0	50%	水路の海底の一部に泥土が堆積している。ヤコ食巻貝ソレイシカイヤマンが多く見られる。		

平成23年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況	
協議会	大和村	今里沖	0	5%未満	壊滅状態でサゴの骨格が残り、小型群体がまばらに見られる程度。潮流が強く海底へのシル堆積も無いが、新規加入のサゴが少ない。
		今里小浜	0	5%未満	ハヤサイサゴやコビミドリイシの小型群体がまばらに見られる程度で、新規加入のミドリイシ属は少ない。背後の崖が小規模に崩れているが影響は無し。
		名音沖	0	5%	直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体が散見。コリボース状だけでなく、卓状の小型群体も見られる。加入数も多い。
		名音隧道	0	5%未満	壊滅状態で、骨格が残る。骨格上に直径10～15cm程度のミドリイシ属の小型群体が見られる。サゴ群体の成長が期待できる。
		ヒエン浜中央	0	10%	局地的にミドリイシ属の直径1m程度の群体がみられる。新規加入のミドリイシ属は少ない。
		ヒエン浜戸円側	0	10%	局地的にミドリイシ属の大型群体がみられる。ミドリイシ属の小型群体も散見できる。
		大山崎西浜	0	10%	直径20cm程度のミドリイシ属の小型群体が多く見られる。多様性が高く、サゴの成長も期待できる。白化や食痕も見られなかった。
		トルス	0	5%未満	壊滅状態でハヤサイサゴやアサゴが僅かに残る状態。小規模なリーフだが、礁斜面には、死滅した大型の卓状ミドリイシ属の骨格が残る。
		マッコ	0	5%未満	壊滅状態で、直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体が、まばらに見られる。付着藻類が多く、新規加入は少ない。背後地で小規模な崖崩れがあるが影響無し。
		石川	0	5%未満	壊滅状態で、ハヤサイサゴや新規加入のミドリイシ属の小型群体が、まばらにみられる。死滅した大型卓状ミドリイシ群落の骨格が残る。
		親川	0	5%未満	壊滅状態で大型の卓状群体の骨格が残る。直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハヤサイサゴが、まばらに見られる。
		宮古崎	0	5%未満	壊滅状態で、直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体が見られる。全体的に加入数は少なく、多様性はやや低い。
		志戸勘ト礼沖コマリ	0	20%	礁原上にある直径50m、水深10mのすりばち状の窪み(コマリ)。樹枝状ミドリイシ属やアサゴモドキ属の小群落が点在。周辺海域にあまり見られない種もある。
	志戸勘ト礼礁池	0	30%	コマリから陸側に広がる礁原では、樹枝状ミドリイシの小型群体も多くみられる。礁池内では、順調にサゴが回復している。	
	ヒエン浜礁池	0	5%未満	海底はサゴ礁が堆積し、塊状ハサゴが点在している。ミドリイシ属のサゴは、ほとんどみられない。シラゲウニが多くみられた。	
	大棚	0	5%	サゴは壊滅状態であるが、直径10cm程度の小型群体がみられる。多い所では、1㎡あたり5群体以上。新規加入のサゴも多い。	
	国直北	0	5%	サゴ壊滅後に回復しない状態が続いていたが、ミドリイシ属小型群体が散見できるようになった。多様性が高く以前の状態への回復が期待できる。	
	国直	0	5%	サゴ壊滅後に回復しない状態が続いていたが、ミドリイシ属小型群体が散見できるようになった。多様性が高く被度の増加が期待できる。	
	宇検村	曾津高崎東	0	70%	大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっている。順調に回復しており、サゴ幼生の供給源としても、周辺海域の回復を促す重要なサゴ群集である。
		外浜	0	40%	礁縁では被度が高くなり、卓状ミドリイシ大型群体もみられる。礁斜面では、新規加入のサゴは少なく、被度も低い。
屋鈍崎		0	5%未満	礁斜面上部に、ミドリイシ属の小型群体が散見できる。白化や食痕は見られなかった。今後、被度の増加が期待できる。	
屋鈍		0	5%未満	直径10～20cm程度のサゴが散見できる。白化や食痕は見られなかった。今後、被度の増加が期待できる。	
タエン崎		0	5%未満	直径10～30cm程度の卓状およびコリボース状のサゴ群体が散見できるが、種の多様性は低い。白化や食痕は見られず、今後被度の増加が期待できる。	
タエン		0	20%	内湾性の環境で、多様性が高い。キメイ属やハマサゴ科の群体が多い。白化や食痕も無い。	
枝手久島北		0	70%	大型卓状ミドリイシ属が優占。新規加入のミドリイシ属も多い。食痕や白化が見られず、健全なサゴ群集がある。	
倉木崎		0	40%	コリボース状ミドリイシ小型群体が多い。ハヤサイサゴも散見できる。白化や食痕も見られない。	
船越海岸	0	70%	大型卓状ミドリイシ属が優占。新規加入のミドリイシ属のサゴも多い。白化や食痕もみられず、健全なサゴ群集がある。透視度も高く、環境は良好。		
龍郷町	嘉渡	0	5%未満	一部にソフコール類の群生が見られ、ハードコーラルではハヤサイサゴ・ミドリイシも見られる。	
	円	0	5%未満	ソフコール類優占。ハヤサイサゴ・ハガタサゴ・ダイウサゴも少数見られる。ミドリイシの成長も多く確認できる。	
	今井崎	1	30%	ミドリイシが順調に成長している。ソフコール類が多く見られる範囲がある。	
	ハナゴイ	4	35%	ハマサゴ属の大型の群体が広範囲で広がる。ミドリイシ属は少なく、新しい定着・成長もほとんど見られない。	
	赤尾木	0	40%	ハマサゴ群体が点在している。枝状・卓状ミドリイシの成長が確認できる。	
	白浦	0	20%	基部は死滅しているが、先端部が生存している枝状ミドリイシが多く見られ、成長を続けている。	
	戸口アーチ	0	35%	ハヤサイサゴが多く確認できる。ミドリイシ類の成長も順調。食害も確認できない。	
	アウン	0	35%	体長2cmのミドリイシ属が多く見られる。食害は確認できず、個体も見られない。	
	ウマズバナ	0	30%	ミドリイシ・ハヤサイサゴ・ウメ竹等サゴの種類が多く、成長も著しい。オヒビ・食害共に確認できなかった。	
	戸口落水	0	35%	サゴの種類が豊富。水深が浅い箇所にサゴが多い。オヒビ・食害共に確認できなかった。	
	久場	0	30%	2年連続の豪雨災害で水深5m以浅のサゴは壊滅状態。5m以深のサゴ群生も50%以上死滅している。	
	倉崎	1	20%	砂地の根にエビイダ・ホシイダ等のミドリイシの成長が見られる。	

平成23年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況
瀬戸内町	実久東	0	50-74	サゴは10~20cm程度の大きさ。
	実久西	1	25-49	小さな枝サゴが多く見られた。大きなものは25~40cm程度。密集している。
	デリキョンマ東	0	50-74	レイガイの被害が見られる。
	デリキョンマ西	0	50-74	枝サゴが多い。
	安脚場東	0	25-49	小さなサゴが育ってきている。
	安脚場西	0	25-49	小さなサゴが育ってきている。
	黒崎東	0	0-24	新芽が出てきている。
	黒崎西	0	0-24	新芽が出てきている。
喜界町	花良治	0	25-49	テープ状のサゴが多い。オヒビテの食痕は見られない。
	池治	0	0-24	枝状サゴが多い。オヒビテの食痕は見られない。
	塩道	0	0-24	枝状サゴが多い。オヒビテの食痕は見られない。レイガイイダマを10個駆除。
徳之島町	畦	1	50-74	
	母間	1	50-74	
天城町	松原漁港沖	0	0-24	昨年度と比較し余り変化なし。若いサゴ礁は見られない。
	浅間沖	0	0-24	調査開始時よりほとんど変化なし。潮通しの良い場所では、早めの回復が期待できる。
伊仙町	喜念	1	50-74	オヒビテのサイズは小さい。若干白化が見られた。
	佐弁	1	50-74	大型のオヒビテが見られたが、サゴは良好。
	伊仙	1	50-74	目立った白化は見られず、食痕もあまり無い。サゴの発育は良好。
	面縄	1	50-74	枝サゴは少ない。
和泊町	西原	1	25-49	
	出花	0	25-49	
	ワンジョ	1	25-49	食害あり。
	イダシチ	0	25-49	
知名町	屋子母	0	0-24	ハヤササゴ系の枝が長いサゴが多数あり、海中が明るく感じる。陸から流れ着いたビニール袋がサゴに損傷を与えている。
	屋者	0	0-24	枝の長いサゴが少なく、コトコトサゴ・ウネモンサゴ等の表層を覆うサゴが多い。ゴミの付着が多い。
	沖泊	0	0-24	浅場のハヤササゴが所々で白化しているが、原因は不明。
与論町	供利沖	1	50-74	食害痕があるサゴが見られた。レイガイも多く見られる。
	皆田沖	0	50-74	水深5m付近は海藻が多い。食害やオヒビテは確認できず。レイガイも見られた。
	茶花B & G北東	0	50-74	浅場は5~10cmのミドリイシが多い。深場ではサゴの種類も多く、ソフコソ等も生息している。
	茶花B & G南西	0	50-74	浅場は種類が多く見られるが、白化やレイガイも多い。深場はミドリイシ以外の種類がかなり多い。
	赤崎沖 (A)	0	0-24	オヒビテ・レイガイは発見できなかったが、食害にあっているサゴが多く見られた。2~3年くらいのハヤササゴが多い。
	赤崎沖 (B)	0	25-49	最近食害にあったサゴは見られなかった。浅場はミドリイシハヤササゴの種類が多い。深場は多くの種類や巨大なサゴはほとんど見られない。